

千曲川河川事務所の事業概要

国土交通省 北陸地方整備局

千曲川河川事務所長 浅見 和人



1. はじめに

千曲川は、その源を長野、山梨、埼玉県境の甲武信ヶ岳（標高2,475m）に発し、山間部を北流して佐久、上田盆地を貫流した後、長野盆地に入り、緩やかに蛇行しながら北東に流れを変え、長野市で犀川に合流し、再び山間狭窄部の中野市立ヶ花、飯山戸狩を経て新潟県に入る一級河川です。

千曲川河川事務所では、「流域の安全・安心の確保」に全力を注ぐとともに、河川環境の整備・保全を通じて、「詩情豊かな潤いある川づくり」や、「活力ある地域づくり」の実現に取り組んでいます。

2. 事業の概要

令和元年東日本台風（台風第19号）による大水害を受け、現在、信濃川

水系全体で早期の復旧・復興、さらなる安全・安心の確保に向けて、流域の国・県・市町村の関係者が連携して、河川整備のハード対策と、地域連携を含めたソフト対策を一体的かつ緊急的に進めるため、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を鋭意進めているところです。

また、治水対策のみならず、河川空間を活用した地域の賑わい創出のための「千曲川北信5市町かわまちづくり」、千曲川中流域における砂礫河原の保全・再生と外来生物の抑制等、良好な河川環境を復元する「自然再生事業」などの河川環境整備事業、河川の適正な維持管理についても、関係機関と連携して進めています。

さらにソフト対策として、流域全体で危機感を共有する「千曲川・犀

川（緊急対応）タイムライン」の運用、コミュニティ・タイムラインやマイ・タイムライン作成支援等を行っています。

3. 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

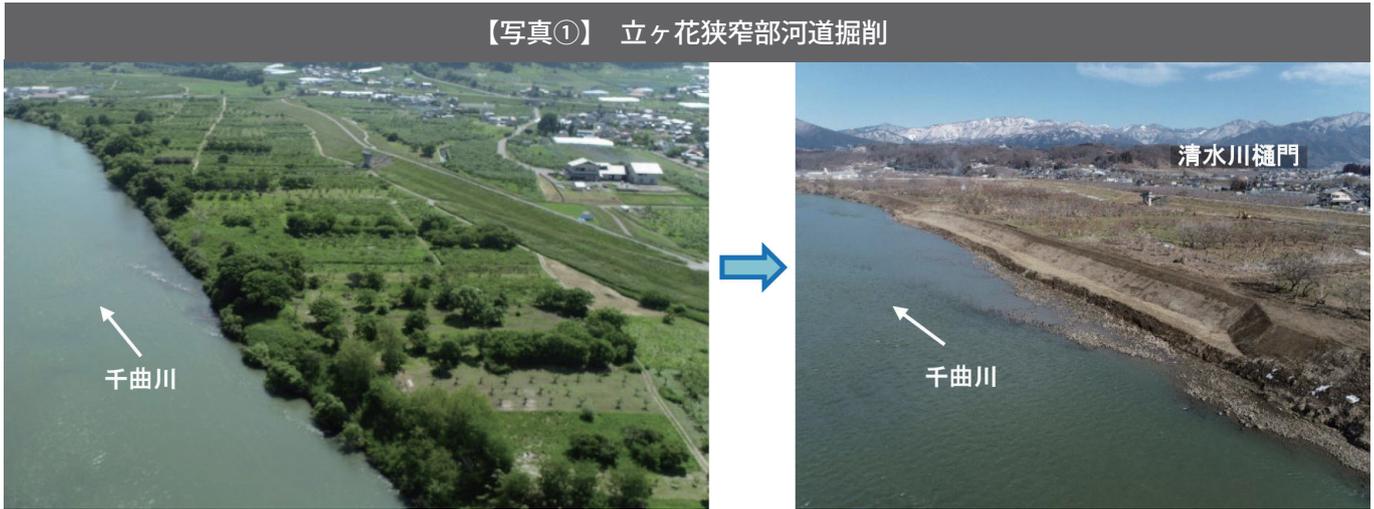
令和元年東日本台風では、信濃川水系の上流域を中心に記録的な豪雨となり、千曲川、信濃川中流の各水位観測所で計画高水位を超過し、観測史上最高水位となる記録的な豪雨となりました。

この洪水により、長野市穂保地先では堤防決壊、さらに千曲川上流域から信濃川中流域による家屋の浸水、河岸侵食による建物の流出など流域全体で大きな被害発生したことから、流域内の関係機関が連携してハード対策とソフト対策を一体的かつ緊急的に進めるため、令和2年1月に信

【写真①】 粘り強い河川堤防の整備（立ヶ花～村山橋の間）



【写真①】 立ヶ花狭窄部河道掘削



左：着手前（令和4年7月） 右：掘削後（令和5年3月）

濃川水系緊急治水対策プロジェクトをとりまとめ、再度災害防止・軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指してきています。

河川における対策として、令和元年東日本台風洪水における千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水防止を目標に、河道掘削、遊水地、堤防整備・強化などの対策を実施しています。

令和6年度は、引き続き、粘り強い河川堤防の整備を進めるほか、洪水時の水位低下を行うため、立ヶ花及び戸狩狭窄部区間を含めた河道掘

削、上今井遊水地や埴生遊水地の整備等を関係機関と調整を図り、事業を推進します。【写真①参照】

4. 大町ダム等再編事業

大町ダム等再編事業は、既設の高瀬ダム・七倉ダム（発電専用ダム）の貯水池容量の一部と大町ダム（多目的ダム）の水道容量の一部を、洪水調節容量として新たに確保することにより、洪水調節機能を強化する事業です。

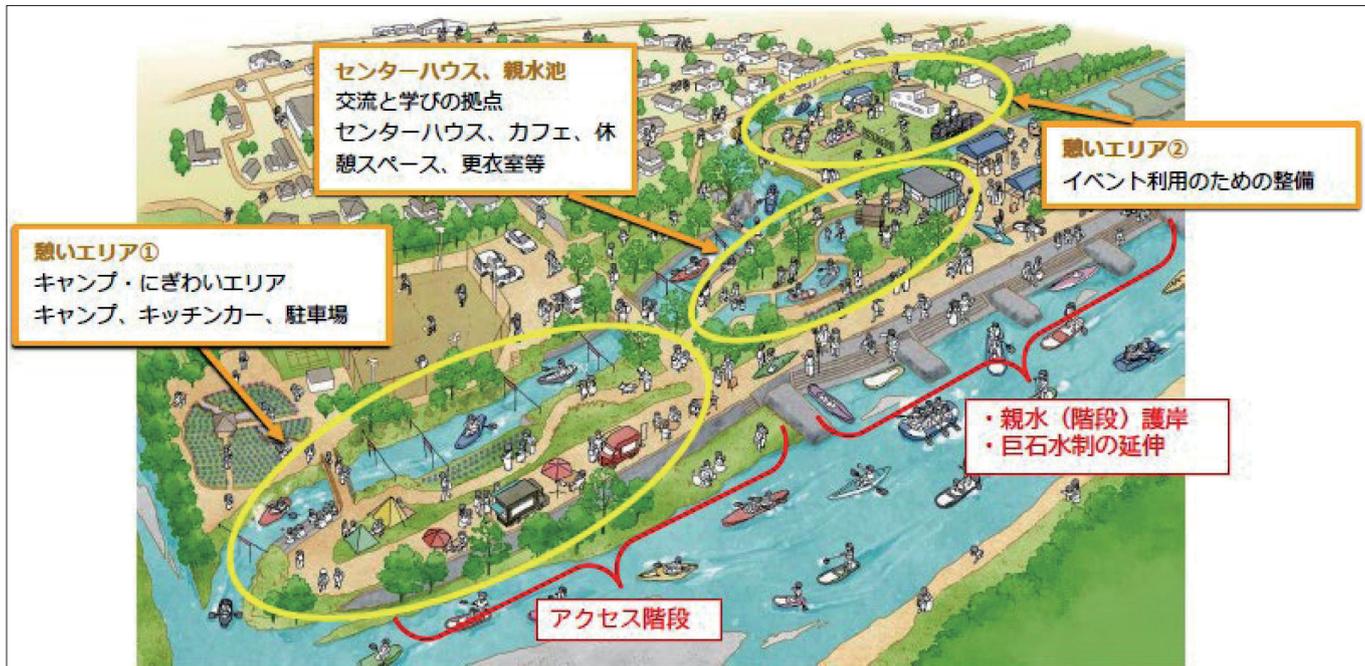
この事業により、3ダム合わせて3,267万m³の洪水調節容量を用いて、現在の大町ダムのダム操作方式

を変更し、3ダム連携による操作運用を令和7年度から実施し、大町ダムからの放流量を抑制することにより、さらなる下流域の河川水位上昇抑制が可能となります。

また、高瀬ダムの土砂堆砂対策として、将来にわたり確保した洪水調節容量等を維持することを目的として、令和6年度から土砂輸送用トンネル（約11km）を高瀬ダム上流から大町ダム下流までの間に整備し、土砂搬出のためのベルトコンベア、土砂分級設備、土砂仮置施設等を実施していきます。【写真②参照】

【写真②】 大町ダム 土砂輸送用トンネル工事 現場状況（令和6年8月）





図① 安曇野かわまちパス

5. 河川空間を活用した地域のにぎわい創出

○上田市千曲川×依田川かわまちづくり

上田市のかわまちづくりでは、水辺整備により誰もが安全かつ容易に利用できる散策路や坂路、親水護岸等の整備を行っています。市民はもとより観光客にとっても魅力あるまちの拠点を創出することで、水辺利用の促進を図るとともに、地域活性化を目指します。

○千曲川北信5市町かわづくり

河川空間を活用した地域の賑わい創出のため、長野県北信地域の5市町（長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町）が連携し、千曲川を軸とした広域観光ルートの構築、地域の歴史・文化の伝承等による広域観光の推進と地域活性化に向けて、親水護岸や高水敷整正、アクセス道路等の水辺整備とした、かわまちづくりを進めています。

○安曇野市犀川×前川かわまちづくり

安曇野市犀川×前川かわまちづくりは、令和6年8月計画登録され、各種パドルスポーツの発着地点として活用されている犀川河岸について、利便性と安全性をより高めるための親水（階段）護岸、巨石水制の延伸などの整備を行う予定です。今後、水辺と拠点が一体となり、利活用の向上や水衝部の緩和、瀬・淵の形成による生物の生息・生育・繁殖環境の創出を目指して、具体的な検討を進めていきます。【図①参照】

6. 砂礫河原の保全・再生に向けた取組

千曲川はかつて広大な砂礫河原を有していましたが、河床低下などさまざまな要因によって、高水敷と低水路の高低差が拡大し、砂礫河原および生息している固有種が減少しています。さらに、アレチウリ、ハリエンジュ等の外来種が侵入・拡大し、これまで千曲川に生息した在来種の生息環境が

悪化・減少しています。

千曲川らしい砂礫河原を再生するため、自然再生事業として、中州等を切り下げ、中小洪水による自然攪乱や河床砂州の冠水頻度を上げることで、砂礫河原の再生・保全や外来種の侵入繁茂を抑制し、千曲川本来の自然環境を再生する取組を進めています。

7. おわりに

近年、気候変動に伴う地球温暖化の影響により、水害が激甚化・頻発化しています。今後、水害に備えるため、河川管理者のみならず、地域のあらゆる関係者が協働して被害を軽減させるため「流域治水への転換」、「流域治水の実践」について、ハード・ソフト対策の両面から進めていく必要があります。引き続き、千曲川流域における「水害に強い、魅力ある地域づくり」に向けて、関係各位のご協力を賜りますようお願いいたします。